



全労生・議長（電機連
合中央執行委員長）
野中 孝泰

新しい年の幕が明け
て、もう1カ月になろ
うとしています。皆
さまそれぞれに新年を
力強くスタートされ
たことお慶び申し上げ
ます。今年の干支は「己
亥（つちのと・い）」
ですが、「己」と「亥」
が重なる年は、完成し
た自己や成熟した組織
が、足元を固めて、次
の段階を目指す準備を

する年という意味があ
るようです。全国労働
組合生産性会議（全労
生）もおかげさまで、
本年結成60周年を迎え
ます。生産性運動の原
点に立ち返ると共に、
労働運動としての取り
組みの進化をはかる年
にしたいと思えます。

誰のため 何のため

世界に先駆けて進行
する人口減少問題、さ
らには第4次産業革命
がもたらす技術革新や
社会変革など、これま
で経験したことのない
変化に対して、受身で
なくむしろ主体性を持
って、「持続可能な社
会」の再構築に取り組
まねばならないと思っ
ています。右肩上がり

の中で築きあげてきた
制度や仕組み、あるい
は個々人の能力や意
識、さらには社会全体
の価値観を見直さなけ
ればならない時代であ
り、変化の先に私たち
がどんな社会像を目指
すのかが問われる時代
でもあります。

1959年開催の生
産性ローマ会議報告書
には「生産性とは何よ
りも精神の態度であ
り、（途中省略）人間
の進歩に対する信念で
ある」と謳われていま
すが、持続可能な社会
の再構築にあたり、人
間性を基礎とした「生
産性の精神」が非常に
大事だと考えていま

す。従って、先ずは「生
産性三原則」を共有の
価値観とした上で、日
本社会全体の生産性向
上運動にしていくな
必要があります。

日本は、一人一人の
懸命な働きによって成
り立っている国です。
だからこそ働く全ての
人たちの「働くことの
尊厳」や「豊かに働く」
こと、「働く現場」を
もっと大事に考えなけ
ればならないのではな
いでしょうか？

生産性向上運動を通
じて、人が持っている
無限の可能性を伸ば
し、「働きがい向上と
会社・社会の永続的な
発展の好循環」を目指
したいと思えます。本
年もどうぞよろしくお
願い申し上げます。